

1 AI、生成AIのイメージ

- AI : コンピューター自身が、大量のデータの学習を通じて隠れているルールや相関関係などの特徴を見出すことにより、人間からの問いに対し、より適切に回答できる技術（医療分野でのAIによる診断支援、金融分野における超高速・超高頻度取引など）
- 生成AI : AIの一分野。大量のデータ学習により特徴を理解したうえで、それを踏まえた内容の新たなコンテンツ（文章、画像、音声など）を人間の指示に応じて生成できる技術（文章生成AI (ChatGPTなど)は、指示に応じて「自然な文章」を生成できるもの）

【注：生成AIによる回答をデジタル推進局で編集】

2 生成AIをめぐる動き

- 全国的に生成AIの活用が進む一方で、多様なリスクに対する検討も進みつつある。
 - ・全国で45都道府県が生成AIを「導入」または「試験導入」（導入率96%）
（主な用途：アイデア出し、議事録の要約など）【R6.5.1 読売新聞】
 - ・リスク対策を進める指針として、国「AI事業者ガイドライン」策定
（R6.4.19 総務省・経済産業省）
 - ・直近の課題として、偽・誤情報及び知的財産権のリスクについては、現在政府検討会で検討中
- 岐阜県における生成AIの試験利用（試験導入）実施状況
 - ・令和6年1月19日（金）～現在、各部局主管課等の職員（約400名）対象
 - ・生成AIのリスクに鑑み、県「ガイドライン（試行版）」の遵守を利用者に徹底
 - ・利用状況把握のため、ログの取得と利用ごとのアンケート実施

＜利用状況＞ **【6月11日時点】**

 - ・累計利用回数 5,405件 / 利用者数（延べ） 539人
 - ・アンケート回答数 361件



生成AIの試験利用について(2/2)

3 試験利用の結果と今後の取組み

○利用者アンケートの結果 【6月11日時点】

<主な利用用途>

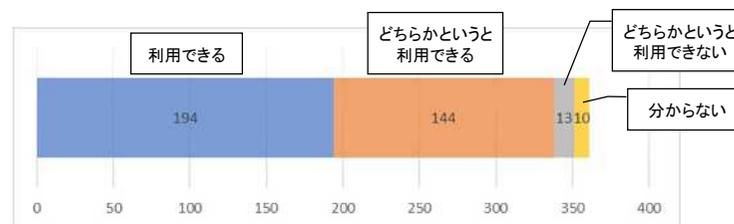
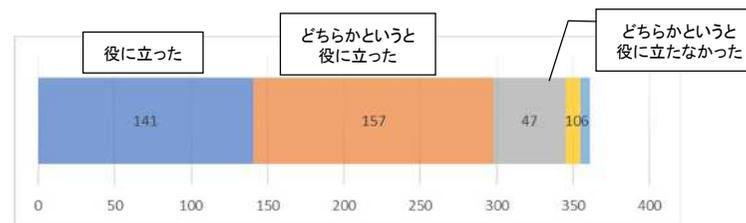
- ・ 文案作成（29%）とアイデア出し（27%）に多く利用されている。

<業務への役立ち>

- ・ 83%の利用者が「役に立った」または「どちらかという役に立った」と回答。

<今後の業務における利用可能性>

- ・ 94%の利用者が「利用できると思う」または「どちらかという利用できる」と回答。



○今後の取組み（案）

- ・ 上記アンケートの結果、職員の業務への有効性が確認できたことから、ガイドラインの遵守と利用開始前の研修受講を必須としたうえで、**全庁に導入することとする。**
- ・ なお、AI技術の進化は著しく、国内外でそのリスク等について様々な議論が続いていることをふまえ、全庁導入後も当面の間、ログの取得と利用者アンケートを継続する。

